

(公財) こうち男女共同参画社会づくり財団主催事業

令和7年度

参加費
無料※

募集人員
30人

女性防災プロジェクト2025

年々激化する自然災害。そして近い将来、必ず起きるとされている南海トラフ地震。
これからの防災・減災の取り組みに、女性の存在と多様な視点は不可欠です。
プロジェクトでは、防災の知識や課題、地域活動を実践するために役立つ内容を学びます。

わたしたちで守る！ 高知の未来

多彩な講義とフィールドワーク！

内容は裏面に掲載

お申込みは
ソーレHPより

3月16日 日
9:00から

全日程託児あり！



期間

2025年4月～8月 全5回（6/15防災教室含む）

会場

こうち男女共同参画センター「ソーレ」
（高知市旭町3丁目115番地）

対象

全ての回に参加可能であり、以下の要件を満たしていること

- ① 高知県内在住・在勤・在学の女性で防災活動への意欲がある方
- ② 電子メール等オンラインでの連絡または受講が可能な方
- ③ 防災士または自主防災組織に所属あるいは講座終了時までに所属予定であり、講座で学んだことを地域活動で実践可能な方

- 定員に達した日をもって受付を終了します。
 - 本講座は、平成29年からこうち男女共同参画センター「ソーレ」主催の女性防災プロジェクトを修了された方も受講することができます。
 - 本講座修了生は、こうちJBL（女性防災リーダー）として登録されます。
 - 地域性を考慮し、受講される方を決定させていただくことをご了承ください。
- ※6/15フィールドワークのレクリエーション保険料のみ、ご負担ください。



こうちJBL

🔍 高知 ソーレ

詳細・お申込みはホームページをご覧ください。

お問い合わせ

TEL 088-873-9100 時間 9:00～17:00

休館日：第2水曜日・祝日、年末年始（12/29～1/3）
こうち男女共同参画センター「ソーレ」

URL

<https://www.sole-kochi.or.jp>

2025 4月~8月 女性防災プロジェクト プログラム

会場：こうち男女共同参画センター「ソーレ」ほか



第1回

4/13 日

第2回

5/18 日

時間：13:00-16:00
(フィールドワーク除く全日程)

フィールドワーク

6/15 日

第3回

7/13 日

第4回

8/24 日

9:30-13:30



三里地区を歩き「未災地ツアー」で
被災時のイメージをつかむ

第1回 災害とジェンダー

防災におけるジェンダー平等の視点の重要性を理解。防災活動の実際を学び、アクションプラン作成のイメージを得る。(講座とグループワーク)

第2回 防災への多様な参画

日常からできる防災を組み込んだ地域活動を知る。また災害時の行動や、地域の状況のイメージを得たうえで、被災時に発生する様々な困難を理解する。(講座とグループワーク、ジェンダーHUGの紹介など)

フィールドワーク

高知市三里地区を実際に歩き、被災時のイメージをつかむ『未災地ツアー』を行う。

※このフィールドワークは「防災教室」として開催し、10名が追加で参加予定

第3回 防災課題を意識する

フィールドワークで体験し、見てきた地域の避難リスクや、資源となり得るものは何か？地域防災の可視化と地図化を行い、被災地支援の現実に照らし合わせ、防災課題を意識する。

第4回 アクションプランを作る

他団体や修了生、防災行政担当者との意見交換や情報共有を行い、地域活動を行うためのアクションプランを仕上げる。

講座の内容は変更になることがあります。

講座サポーター：こうちJBL(令和6年度女性防災プロジェクト修了生)の皆さん

講師紹介

第1回、第4回

斉藤 容子 さん

関西国際大学 客員教授

大学卒業後、(特活) CODE海外災害援助市民センターにて海外の被災地での復興支援(アフガニスタン、イラン、スリランカ等)にあたる。2005年イギリス・ノーザンブリア大学災害と持続可能な開発コース理学修士課程を修了後、国際連合地域開発センター(UNCRD)防災計画兵庫事務所で研究員。2013年、関西学院大学総合政策学部博士課程修了。2012年より、ひょうご震災記念21世紀研究機構・人と防災未来センター主任研究員を経て2020年から2022年10月まで関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・准教授。現在は人と防災未来センターリサーチフェロー、関西国際大学客員教授、兵庫県立大学客員研究員として研究活動に従事している。



第2回

大槻 知史 さん

高知大学 地域協働学部/防災推進センター 危機管理分野

防災推進センター危機管理分野教授/立命館大学歴史都市防災研究センター客員研究員/福島大学地域未来支援センター客員研究員。

地域の方と一緒に、「いつも」の暮らしに無理なく防災を組み込む活動を進めている。



第3回

山崎 水紀夫 さん

さんすい防災研究所代表 / 高知防災プロジェクト代表

元高知県庁職員。98豪雨のボランティアセンター代表。東日本大震災時には震災1週間後から岩手県大槌町での支援活動を行い、昨年の能登半島地震においても、長期間にわたって現地入りし、これまでに26を超える災害現場において被災地支援を行っている。サークル顧問や防災団体代表として、ぼうさい大賞、消防庁長官賞、レジリエンスアワード準グランプリなどを受賞。セールスポイントは『深い専門性より、バランスを重視した支援活動と癒しの心』。



この他、防災行政ご担当の方をはじめとする
ゲストをお招きする予定です。